

# 小学校特別支援学級における自立活動「なかよし音楽」の3年目の取り組み －気持ちの安定を図り、他者と表現を楽しめるような音楽活動を目指して－

和歌山大学教育学部 菅 道子(研究代表)、上野 智子  
和歌山市立楠見東小学校 木下 由香利、辻 あゆみ、  
中山 由実、高田 早都子

## 1. 研究の趣旨

本取り組みは、音楽活動を取り入れた「自立活動」の実践を通して、特別支援学級における授業づくりの可能性や支援の在り方について、大学教員と公立小学校教員の連携によって実践・検証しようとするものである。本年 2022(令和 4)年度は、昨年に引き続き3年目の取り組みとなる。

学級に在籍している児童は、人との関わり方や情緒の安定等に様々な困難を持っている。そんな中で、音楽を通して気持ちの安定を図り、他者と表現を分かち合えるような音楽活動を体験させたいと願い「なかよし音楽」の時間を設定している。計画案を練り、授業後は協議会をもち、成果と課題を具体化しながら授業構成を検討していった。今年度も、子どもたちが安定・安心できるコンディションを保ち、信頼関係を基盤にした中でコミュニケーションを図ることができるよう、取り組んできた。

## 2. 研究の経過

2022(令和 4)年

第 1 回目 7 月 21 日(木)本年度の取り組みについての説明と検討。

第 2 回目 10 月 12 日(水)授業についての検討。

第 3 回目 10 月 24 日(月)1 回目「秋を探す音楽遊びをしよう」授業(大学側主体)。

第 4 回目 10 月 26 日(水)2 回目「秋の絵を描こう」授業(小学校側主体)。

第 5 回目 10 月 31 日(月)3 回目「絵を楽譜にして音楽づくりをしよう」授業(大学側主体)。

第 6 回目 11 月 1 日(火)授業についての検討。

2023(令和 5)年

第 7 回目 1 月 16 日(月)報告書についての検討。

## 3. 自立活動「なかよし音楽」の取り組みについて

### (1)対象児童

なかよし 1 組(知的障害学級 6 年 2 名、5 年 1 名、4 年 1 名)

なかよし 2 組(知的障害学級 3 年 4 名、2 年 4 名)

なかよし 3 組(自閉症・情緒障害学級 5 年 1 名、4 年 1 名、2 年 1 名)

なかよし 4 組(肢体不自由学級 6 年 1 名) 合計 16 名

### (2)目標

- ・音楽活動を通して、人と心を通わせる楽しさを体験する。
- ・ルールを守って活動することで、自分も他者も気持ちよく過ごせることに気づき、積極的になおかつ安定した気持ちで取り組む心地よさに気づくことができる。

### (3) 支援

- ・音楽活動に参加できるよう、個々にあった声かけをする。
- ・活動内容がより分かるよう、視覚的支援となる教材を準備する。
- ・体を動かす活動を取り入れ、やる気を引き出す。
- ・ルールが守れた時にはほめ言葉をかけ、意欲を持続させる。
- ・リズム打ちや楽器演奏等で一人ひとりの児童の承認の場を設けて自信をつけさせる。
- ・一人ひとりが役割をもってリズム打ちや楽器演奏を行い協働することで、一つの音楽表現をつくり出せるよう支援する。

## 4. 実際の授業と省察

「なかよし音楽」(自立活動)は月1回のペースで2022(令和4)年9月より～2023(令和5)年1月までに5回行ってきた。

今年度は、1学期半ばからなかよし学級の教室以外の場所で大半を過ごしている児童や、休みがちな児童がいるので、それらの児童に自立活動への参加を促したいと考え、昨年度までの取り組みに加え、自分たちの描いた絵を手掛かりにした音楽づくりのプログラムを作成してきた。

### (1)10月24日(月)の授業概要

〈活動のテーマとめあて〉「秋を探しにいくツアー」

- ・生活の中にある秋の風物を思い出したり感じたりしながら、音を聴いたり探して鳴らしたりして、表現することができる。
- ・音楽遊びで体験したことにもとづいて、絵で表現することができる。

表1 第1回「秋を探しにいくツアー」授業の概要

	項目	めあて	活動
2分	1. あいさつ 《こんにちは!》	・気持ちよく朝のあいさつをしよう	・一人ずつ「おはよう」とあいさつをする。
2分	2. 秋をさがしにいくツアー 秋を探す音楽遊び→秋の絵を描く	・今日の活動の見通しをもつ。	
2分	3. 聴いてみよう (鑑賞)《里の秋》 作詞: 斎藤信夫 作曲: 海沼 実	・耳を澄ませてよく聴こう	・半円に座って、演奏を聴く ・ピアノ、チェロ、サクソ、フルートのアンサンブル
6分	4. リズムリレー 〈秋といえば何がある? リズムリレー〉 ・カードから秋にあるものを選ぶ。友達が選んだものをもう一度選ぶこともできる。カード以外から選ぶこともできる。	・歌って、楽器も鳴らしてみよう。 ・虫の音を想像しながら楽器を鳴らすことができる。	T: ○○ちゃん C: はい T: 秋といえば 何がある? (カードから選ぶ) C: ××、 T: ××、 ××、 みんなで ××を★★しよう!

6分	5-①. 高学年 《秋の虫》のカノン 作詞:岡本 敏明 イギリス曲 ・最後は「おにわの むしたちが」 として、全ての虫たちが鳴いて 終わる。 ・日本の唱歌《虫の声》虫の鳴き 声(動画)	・虫の音を想像しな がら楽しく楽器を鳴 らすことができる。	ギャザリングドラム、 トウパーノ、 ミニジャンベ、 木の実テンブルブロック、 オルゴールボール エナジーチャイム、 アジアン鉄琴、 カリンバ、マラカス、等 を使って、曲に合わせて演奏する。
4分	5-②. 低学年 《きききのコ》 作詞:まどみちお 作曲:くらかけ昭治	・歌にあわせて踊っ てみよう。	・音楽に合わせて、銀色の折り紙を降ら せたり、手をつないだり、上に上げたり して踊る。
4分	6. あきの風 《おおかせこい》	・心を落ち着けよう。	・プレイクロスの中に入れてもらい心地 よさを感じる。
1 5 分	7. なかよし学級で探した秋の絵 を描こう		・手形や足形をとり、それらをもとに何 を作ろうか考える。
2 分	8. おわりの歌 《きょうは終わり》		

## (2) その後の取り組み

### ①11月26日(水) 自立活動の時間

16人全員そろって手形・足形をもとに、きのこやハロウィンのおばけ・かぼちゃ等を作り、秋の絵を完成させた。個性豊かな作品が出来上がった。



写真1 絵具で手形・足形を描く児童たち



写真2 高学年児童たちの描いた秋の作品



写真3 低学年児童たちの描いた秋の作品

### ②11月27日(木) 東タイムの時間

24日に時間がなくなり十分できなかった「あきの風」の活動を行った。プレイクロスを操作するグループ、その中に入れてもらうグループ、トーンチャイムを演奏するグループに分かれ、15分程度音楽に浸る時間を設けた。トーンチャイムの音色を楽しみ、プレイクロスに癒され、ゆったりとした時間を過ごすことができた。

③11月28日(金) 東タイムの時間

「音楽づくりの第一歩」をテーマとして、身近なものを用いて様々な音に耳を傾ける活動を15分程度行った。素材は何かをあてたり、聴こえた音をオノマトペで表現したりする活動を行い、次時へとつなげた。



写真4 秋の音をオノマトペで表現する児童たち

(3)10月31日(月)の授業概要

<活動のテーマとめあて>「秋を探しにいくツアー」

- ・生活の中にある秋の風物を思い出したり感じたりしながら、音を聴いたり探して鳴らしたりして、表現することができる。
- ・絵で描いたものに合いそうな楽器や音をみつけて、みんなと楽しく音楽表現することができる。

表2 第2回「秋を探しにいくツアー」授業の概要

	項目	めあて	活動・準備物
3分	1. あいさつ 《こんにちは》	・気持ちよく朝のあいさつをしよう	・半円になって座り、一人一人挨拶する。
2分	2. 秋をさがしにいくツアー ・絵を楽譜にして音楽づくりをする。	・今日の活動の見通しをもつ。	
5分	3. リズムリレー ・どんな絵を描いたのかの紹介	・自分の描いた絵を示し、どんな音がするのかイメージして表現することができる。	〈秋と言えば何を描いたの?〉 T:〇〇ちゃん S:はあい T:秋の絵は何を描いたの? S:(絵を差して)△△ T:△△の音は、どんな音? S:(オノマトペで表現) T:ありがとう
10分	4. みんなの描いた絵にあう音を探す。 ・楽器(木の楽器、金の楽器、皮の楽器、その他の楽器)の紹介をする。	・絵のイメージにあった楽器を探すことができる。	・自分の描いたものを表す楽器を探す。 ・「△△の音を鳴らします」と言って音を紹介する。
20分	5. みんなの描いた絵を楽譜にして音楽で表現してみよう。 〈実寸大の絵譜と色カーペットを使った即興表現〉 ・それぞれ描いたものを表現する楽器をもって席にすわる。 ・絵にあるきのこ、おばけ、こうもり、はっぱ等 いくつかの色で分類する。 ・カーペットに乗って指揮をする。赤は全体合奏、カーペットをおりたら 無音。	・絵をみながら楽しく表現することができる。	・色カーペットに乗り指揮をする。 ・指揮者の動きに合わせて、自分の音を演奏する。



写真5 秋の音楽を表現する児童たち

5分	6. おわりの歌 《きょうは終わり》	・気持ちを落ち着けて、活動を終わる。	
----	-----------------------	--------------------	--

#### (4) 授業の省察

##### ① 全体的な授業の流れについて

今年度は、低学年 9 人と高学年 7 人に分かれて授業を行ったことで、一人ひとりの活動の時間が保証された。時間に余裕を持ち、鑑賞や楽器に触れる時間とアートの時間それぞれを十分にとり、もっとそれぞれの活動にどっぷりと浸れたら良かったと考える。

##### ② 24 日の授業について

パワーポイントで見通しが持てたこと、フルート・サクソ・チェロ・ピアノでの生演奏で鑑賞できたことで、秋の世界にスムーズに入っていた。また、即興的に音楽を奏でる場であったことで、「間違い」を意識することなく自由な気持ちでリラックスして音楽活動を楽しむことが出来た。

##### ③ 31 日の授業について

低学年も高学年も、多くの打楽器を目の前にして、興味津々で楽器に向き合っていた。そして、それぞれの児童が自分のイメージに合う音を選び、喜んでそれらを演奏することができていた。普段なかなか自分の意志で物事を決められない児童も、風の音をマラカスで演奏し、後の絵日記にその音のことを繰り返し文章に表現していて、十分満足のいく活動であったことが伺えた。また、なかよし学級の活動から離れがちであった男児も、欠席が増えてきつつある女児も、自分が作った作品に合った音を選び、最後まで活動に参加できた。楽器の写真や名前が分かる楽器紹介ポスターのようなものがあると、さらに児童の関心が高まるのではないかと考える。

指揮者がどの色のカーペットに立つかによって音を示す方法は、指揮者も楽しむことができ、演奏者の集中を促す効果があった。児童も「またやってみたい」と意欲的であった。

##### ④ 児童の成長

児童Aは、一昨年度は途中で教室から飛び出し、昨年度は教室にはいたが参加せずに寝そべっていた。今年度はだれよりも積極的に音楽活動に関わろうと参加していた。もともとAが得意とする絵を今回の活動の根幹として用いたのであるが、それが功を奏したといえる。昨年度ボックスドラムを壊してしまった児童も、今回はていねいに楽器を扱うことができていた。

#### 5. 総括と次年度の課題

2020(令和2)年度から開始した月に1度の「なかよし音楽」(自立活動)は、特別支援学級の担任と大学教員との連携のもと数回の協議会を持ちながら進めていった。これまでの「なかよし音楽」の時間の実践の成果は次の通りである。

第1には、ほとんどの児童が「なかよし音楽」の授業に楽しく取り組んでいることである。普段は2年生から6年生という幅広い年齢差を意識しながらも低学年向けのプログラムを進めることが多い。しかし、中高学年も楽器を扱う活動や造形に取り組み、自分たちが作り出す表現(音楽・造形)に満足できる貴重な体験となった。

第2には、図画工作との融合により活動の幅が広がったことで、児童の達成感・満足感が高まった点である。今回の「秋の絵を描く」活動には、手形・足形アートを取り入れた。想像だけで一から絵を仕上げることに困難を感じる児童がいることが予想されたためこの手法を取り入れた。これら

によっておおまかにアシストされたところに色画用紙やシール等で部品をつけていくので、具体的なイメージを持ちながら短時間で作品を仕上げることができた。ハロウィンの「しあわせな夫婦」のおぼけ、七輪で焼かれたサンマなど個性あふれる作品が見られた。情緒的に不安定な児童も、「このキノコ、食べたら死ぬよ。」と言いながらも楽しんでキノコをつくり、心に抱えているものを表出させていた。31日には遅刻することなく登校できたのも、「秋の音楽づくりをやってみよう」という思いに後押しされたのだと考える。

第3には、オノマトペを使って表現する力がついたことである。発達障害や知的障害を抱えた児童にとっては、きこえた音を言語化してオノマトペで表現することは難しい。初めはどう表現したらよいのか迷っていた児童も、友達の表現をきくことで、自分がイメージした音をオノマトペで発表することができるようになった。これは、リラックスした雰囲気の中、音楽が児童の琴線をふるわせ、言語活動につながったのだと考えられる。

第4には、担任相互の協力体制が充実していることがあげられる。本学校教員の4人と大学教員2人の関係性は回を重ねるごとにスムーズになり、互いの協力体制が整い、阿吽の呼吸でそれぞれが動いている。今後も事前の打ち合わせをしっかりと行い、一人ひとりに寄り添った支援ができるようにしていきたい。

次年度に向けての課題としては次の2点があげられる。第1に、特に気になる児童への引き続きの指導・支援である。日常生活の中においても、音楽がクールダウンの一助となり得ることを願うとともに、担任教師との信頼関係を基盤にしながら、「なかよし音楽」の活動を継続していくことで児童の成長を見守っていきたい。第2に、次年度はこれまで以上に音楽をふんだんに活用し、「聴く」力や他者とよりよいコミュニケーションができる能力を育てていくとともに、様々な視点から音楽を用いた活動を構築していきたい。

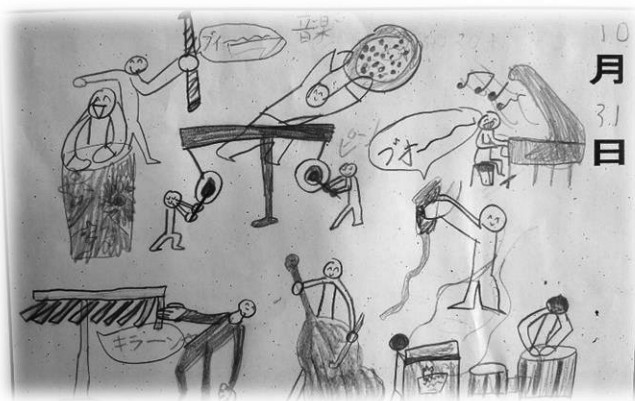
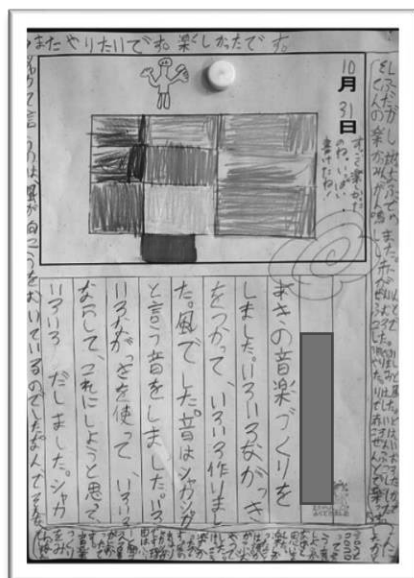


写真6 児童たちの描いた絵日記